事例報告

コロナ禍での高大連携の取り組み
―特別支援学校とのオンライン交流の試み―

藤原　彰子

2021年1月13日受付　　2021年2月10日受理

Approach of the collaboration between high school divisions of special needs school and the university at the time of the coronavirus crisis
―Exchange activities and collaborative learning using the online―

Akiko Fujiwara

キーワード：特別支援学校　オンライン交流　高大連携

Ⅰ．はじめに

大学で特別支援教育の教育課程を履修する学生は，特別支援学校を訪問したり，在籍する児童生徒と関わった経験をほとんど持ち合わせていないため，講義だけでは障害のある児童生徒への指導・支援について具体的なイメージを持ちにくいといわれる．また，2019年3月に学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議から出された「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが，障害の有無にかかわらず共に学び，生きる共生社会を目指して―（報告）」では，特別支援学校高等部卒業後における知的障害者等の学びについて，「大学における学びの場づくりも，本人のニーズを踏まえた対応の一つの有力な選択肢となりえる」と示されており[1)]，特別支援学校に在籍する児童生徒が大学に親近感を抱き，関心を深めることは意義のあることと考えられる．

そこで，昨年度から近隣の特別支援学校と連携し，今年度の特別支援教育関連の科目に特別支援学校に在籍する生徒を招き，学生とともに学ぶ高大連携（交流及び共同学習）を行うことを予定していた．しかし，予期せぬ新型コロナウィルスの感染拡大により，特別支援学校の生徒を大学に招くことが困難な状況となった．交流予定校と対応を協議した際，特別支援学校でも遠隔授業を行うための学習環境が少しずつ整備されていることがわかり，初めての試みで不安もあるが，今年度は互い

大阪体育大学教育学部
〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1

の施設設備を利用してオンラインでの高大連携（交流及び共同学習）を実施することとした．その実践について報告する．

Ⅱ．取り組み内容について

1．実施方法

(1) 対象

知的障害特別支援学校高等部に在籍する1・2年生76名及び大学で特別支援教育関連の科目（2年次配当）を履修する大学生62名を対象とした．

(2) 実施日

20XX年11月～12月の授業日のうち2日（第1回：特別支援学校高等部1年生，第2回：2年生），各90分を設定した．

(3) 方法

Google Meetを用いたライブ授業（同期型）を実施した．特別支援学校生，大学生ともに全員が各校の教室に集まり，その教室の状況をカメラで撮影して交流校に送信した．受信した交流校の映像を大型スクリーンに投影した．

2．オンライン交流会に向けて

(1) 交流する特別支援学校についての理解を深める

学生：交流校の特徴について，ホームページ検索等を活用して調べる．
所在地，生徒数，教育方針，特別支援学校の特徴的な取り組み　など

授業担当教員：交流校の学習内容について，学校の時間割をもとに学習教科や使用教科書を紹介しながら説明を行った．

(2) 大学からの交流の企画（案）を考える

1）個々の学生が交流内容を考える

学生からは，レクリエーション，テーマに沿ったトーク，学校紹介等の企画が出された．主な企画内容は，次のとおりである．

【レクリエーション】
- 絵しりとり，絵本や紙芝居の制作・実演，折り紙
- 大学紹介クイズ，○×クイズ，なぞなぞ
- じゃんけん大会，ビンゴ
- 連想ゲーム，新聞紙ゲーム，リズムゲーム，手遊び
- ボッチャ，アダプテッドスポーツ
- 同じ授業を受ける

【トーク】
- 特別支援学校の生徒とのグループを編成してフリートーク，交流内容を相談・提案
- 学校生活
  楽しいこと，楽しい授業，困っていること，悩んでいること，自分が一番変わったこと，今流行っていること，保健体育の好きな種目
- 自分のこと
  将来の夢，好きな物，好きなスポーツ，

趣味，特技，障害に対して支援をしてほしいこと，一番幸せに感じていること，どんな社会にしたいか

・コロナで困っていること

【学校紹介等】

・特別支援学校ならではのもの

・オススメの本，教材・教具

・ジェスチャー，図，絵などを使った自己紹介

・ふるさと紹介

2）個々の案を参考にしながら，グループで１つの企画（案）をまとめる（大学の授業内でGoogle Meetを使ったグループ協議を実施した）

各グループから出された交流企画を表1に示す.

各グループでまとめた交流の企画を交流校に示し，生徒の状況やオンラインで行うこと等をふまえて，3つの企画を選ぶように依頼した．どの企画を実施するかについては，当日学生に伝えることとした.

特別支援学校が選択した企画は，表1の番号1～3であった.

(3) 当日のオンラインでの企画実施に備えた準備を行う

各グループで進行などの役割を決め，クイズや間違い探しの写真，質問などは，当日の通信状況を考慮し事前に交流校に送付しておくこととした.

1. 実施内容について

双方の時間割の関係から交流の活動時間を調整し，3部構成とした．普段目にすることの少ない特別支援学校の教育活動の状況も学生に伝えられるよう工夫した.

第1回，第2回の実施内容は，次のとおりである.

表1. グループから出された交流企画

番号	内容	番号	内容	番号	内容
1	大学に関する○×クイズ	4	スポーツクイズ	8	「学校紹介クイズ」 コロナ対策, 学校生活で変わったことなど ３択問題形式"
2	「間違い探し」 大学内で撮影した写真の, 1枚目と2枚目で違うところを探す	5	「アニマルビンゴ」 テーマ「天王寺動物園にいる動物」 ビンゴになった人は自己紹介をする	9	「じゃんけん＆QUESTION」 じゃんけんで勝った人が, 負けた人に質問をする"
3	「連想ゲーム」 「たから始まる食べ物」などの質問に答える	6 7	絵しりとり	10	「質問交流会」 将来の夢, 今頑張っていること, 学校で楽しいこと, 好きな授業, クラブ活動"

(1) 第1回

第1部　大学生が考えた企画(*

1) 大学内で撮影した2枚の写真の間違い探し

2) 大学に関する○×クイズ

(*各グループで考えた10個の企画の中から，特別支援学校の生徒が選んだ3つを行うこととしていたが，当日，オンライン上の画面共有が不安定となったり，接続が途切れるなどの通信不良が起こり，2つの企画実施となった.

第2部　特別支援学校　HR活動の参観(ライブ)

第3部　特別支援学校　部活動紹介(VTR)
サッカー，バスケットボール，陸上競技，音楽・ダンス，パソコン・美術　等

(2) 第2回

第1部

1) 特別支援学校生徒から：「特別支援学校○×クイズ」

2) 大学生から：「連想ゲーム」(第1回で実施を予定していた企画)

3) 特別支援学校生徒から：「大学生への質問タイム」

第2部　特別支援学校　現場実習発表会の視聴（VTR）

第3部　特別支援学校で教育実習中の大学生との質疑応答（ライブ）

4. オンライン交流(高大連携)を振り返って

(1) 第1回交流会

大学の教室には大型スクリーンが1つしかないため，そこに交流校の生徒の様子を映すと，出題したクイズの問題等が学生全体で共有しづらい状況が生まれた.(特別支援学校へは事前に問題を送付していたため，学校の通信状況等に合わせて，生徒に分かりやすく伝える工夫をしていただけた）また，大学側からの企画中心であったので，学生から特別支援学校生徒の声を聞きたい，生徒から発信をしてほしいという声があった.

(2) 第2回交流会

第1回の実施状況をふまえて，交流校及び学生と再度調整や確認を行い第2回の交流会を実施した.

交流の企画については，双方向のやりとりができるように大学と特別支援学校，両方の企画を行うこととした．○×クイズでは，両校の生徒，学生全員が○×の紙を掲げてカメラに向けて意思表示をした.

当日に突発的な通信上のトラブル（映像や音声障害等）が起こった場合を想定し，前回と同様に実施するクイズなどの問題は事前に相手校に電子データとして送付しておくようにした．合わせて大学側の企画担当のグループは，オンラインで繋がる特別支援学校の生徒と大学の教室にいる学生の両方に情報が届

くように役割分担を考え，それぞれのメンバーが積極的に動いていた．（カメラに向かって生徒に語りかける進行役，特別支援学校，大学双方の回答をリアルタイムにホワイトボードや用紙に書きとって生徒，学生に示す者など）

Ⅲ．オンライン交流に参加した学生の気づきや学びについて

第1回，第2回の特別支援学校とのオンライン交流を実施したあと，参加した学生に気づいたことや学んだことを問うた．その回答を次にまとめる．

(1) 第1回の反省を生かして

・前回の反省を生かして，とてもスムーズにできたと思った．
・前回よりも交流がしっかりでき，みんなが参加できるやり方で楽しめた．
・互いに参加でき，盛り上がれていてよかった．
・交流の企画はよく考えないといけないと感じた．
・どうすればスムーズに進むかなど，たくさん準備をしてよかった．
・通信環境などに影響が出ないものやみんなが参加できるものなどを工夫する必要があると感じた．
・音声などの問題があるため，問題を印刷しておくなどの事前準備がたくさん必要だと感じた．
・マイクで聞こえづらいことは，紙で書いて工夫して伝えられるようにしたい．
・声が聞きにくい時は，それを文字に起こすとわかりやすいとわかった．
・事前に交流の内容を共有しておくことが大切だと思った．
・相手側のことを考えて，問題を渡しておくなどの工夫やお互いが楽しめることを考えられたのは良かった．

(2) 交流を行ううえで大切にしたいこと

・特別支援学校の生徒のみなさんが楽しそうだったので，こちらも楽しくスムーズに頑張ることができた．
・オンラインの向こう側で精一杯反応してくださるので，こちら側もやりやすかった．
・生徒の反応がよく，リアクションは大切だと思った．
・生徒の反応も大切にしたいと思った．
・伝わっていない生徒に気づけることがとても重要だと思った．
・誰もがわかりやすく理解できるような説明を心がけようと思った．
・ジェスチャーやゆっくり大きな声で話すことが大切だと感じた．

(3) オンラインでの交流について

・場の雰囲気などがわかりにくかったが，

楽しんで交流ができた.

・表情などがわかりにくいところはあったが，みんなが楽しんでいたように感じた.

・たくさん不便なことはあったが，生徒の雰囲気や学校での活動などを知ることができ，とても良い経験になった.

・オンラインでの交流自体が初めてで，時代の進化を感じた.

・会えない距離の学校や人とも直接話をしたり，コミュニケーションが取れると思うと，すごく技術は発展していると感じた.

・どれだけ距離が離れていても電話のように声だけでなく，全員が顔を合わすことができることに交流の可能性が広がった.

・オンラインで不便な点はあったが，交流方法のひとつとして選択肢が増えたと感じた.

・このような時でも，互いの学校が学べる環境があることに教育の幅の広さを改めて感じた.

・このような時でもオンラインという機能を使って交流ができるのは良いことだと思った.

・オンラインでの交流は遠くてなかなか会えない人とも交流ができ，交流方法の一つになると感じた.

・オンラインでの交流でも十分楽しめることが分かった.

・実際に会うことはできなかったが,互いのことを理解することはできたと感じた.

・オンラインでできる交流を考えて行う良い機会だったと思う.

・現状でできる良い交流だと思った.

・やはり対面での交流が1番いいと思った.

・対面で話ができたらもっと楽しかっただろうと感じた.

・特別支援学校の生徒のようすが気になっていたが，接していると高校の生徒と同じように感じた.

・障害のある生徒の支援の工夫を考えるには，直接関わる時間や環境が大切だと思った.

(4) これからの特別支援学校との交流について

・今回より楽しめることを考えたい.

・みんなが参加でき，楽しめるゲームを工夫したい.

・合同チームを作り交流したらもっと楽しいと思った.

・グループごとにオンラインで対話したい.

・実際に学校を訪問して交流したい.

・特別支援学校でボランティア活動もしたいと思った.

複数回交流を実施したことは，前回の反省をふまえた交流企画が設定でき，学生はそれを体感することができた.「全員が参加して盛り上がる」ためには，事前準備として相手校

のことを考えた企画を練る，通信状況の影響をふまえた工夫をすることなどが大切であるし，当日の雰囲気づくりも必要となる．それは，特別支援学校の授業づくりで大事にされているチームティーチングにつながる．進行役だけが頑張るのではなく，同じ場にいる者は全体の活動状況を把握し，進行状況に応じて活動がより充実するように働きかけることが求められる．

オンライン交流は，対面交流を考えると不便なことやもどかしいこともたくさん浮かぶ．

しかし，学生はその中でも時代の進化を感じ，交流の選択肢が増えたとも考えている．

オンライン交流の実施についての調整を特別支援学校と行なっている間にも，新型コロナウィルスの感染は拡大し，その影響で打ち合わせやオンラインの試行に十分な時間を取ることができなかったり，交流会の実施自体が危ぶまれる状況もあった．そのような状況下であっても，両校が協力し工夫して交流を行うことで，学生は特別支援学校の生徒の雰囲気や教育活動のようすを実際に知ることができ，オンラインを通してではあるが，場を共有する中で学んだことは多かったのではないかと考える．交流先の特別支援学校の皆様に，心より感謝を申し上げるとともに，特別支援学校の生徒を大学に招いての交流を行う準備を進めつつ，オンラインでつながっていることの利点を生かした高大連携の在り方をこれからも検討していきたい．

引用文献

1）文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議，障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが，障害の有無にかかわらず共に学び，生きる共生社会を目指して―（報告）．(2019). https://www.mext.go.jp/b_ menu/shingi/chousa/shougai/041/ toushin/1414985.htm（2020年9月25日閲覧）